

スチュアート・マレーは彼の同志たちとまとめたアナバプテストの中核概念に言及する前に、4つの注意事項をあげている。

<注目に値する事項>

- \* 「中核概念」は信念であって「信条」ではないこと。
- \* 再洗礼派は固定化された信仰表明の宣言には慎重な態度をとってきた。

### 理由

- ・宣言は固定化されると、他の声を聞くことを阻み、聖書に向かい続けることを不必要としてしまう危険がある。
- ・再洗礼派は信仰表明の内容と同様に「実践」を重視。
- ・「信条」は、しばしば相手を沈黙させるために持ち出され、排斥や迫害のために利用されることが多く、対話の継続を促すものではない。
- ・再洗礼派が手掛けたのは信仰告白であり、それにすべてを網羅する意図はなく、独自の信念や習慣の特徴的なものを提示した表明である。これらは常に暫定的で、新たな洞察によって改訂されるものと考えている。

<現代のアナバプテストの中核信念>

- 1) ・イエスは私たちの模範、教師、友、贖い主、そして主である方
  - ・イエスは私たちのいのちの源
  - ・イエスは私たちの信仰と生活様式、教会理解、社会への取り組みにおける重要な規範
  - ・私たちはイエスを礼拝し、イエスの後に従う
- 2) イエスは神の啓示の焦点
  - ・イエスを中心とした方法で聖書に臨み、信仰共同体（教会）を主たる場として共に聖書を読み、その見極めをなし、適用して弟子の道を歩む
- 3) クリスマスを拒否し、それに代わる考え方や行動の仕方を追求した諸運動から学ぶ
- 4) 社会的地位・富・権力との常習的結びつきを拒否する
  - ・貧困者、社会的弱者、被迫害者にとってアナバプテストは良き知らせとなる
  - ・これらの弟子道は反発を招き、結果として苦難を伴い、時には殉教に至ることもあると覚悟して歩む
- 5) 教会が召されている目的——弟子道と宣教、交わりの場、相互の責任と義務、多数の声（マルチボイス）による礼拝——献身的な共同体であるため（協調姿勢のリーダーシップ、男女別ではなく賜物による役割、信仰者のための洗礼）
- 6) 霊性と経済問題——シンプルに生活し、寛大に分け与え、被造物をケアし、正義のために働くことの実践と探求に努める
- 7) 福音の中核にある平和づくりの実践——暴力によらない方法で（個々人、教会内あるいは

は教会間で、社会において、国家間で) 平和を造り出す。

再洗礼派は初期から現在に至るまで、エキュメニカルな信条は是認し、それによって正統派の境界線が確立され、キリスト教信仰の本質が要約されたことを承諾している。